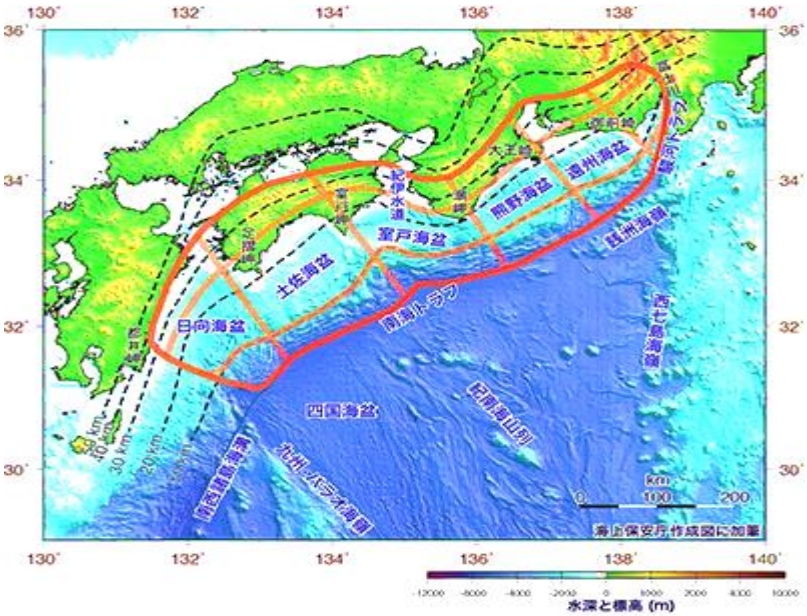
防災・減災だより　９月号

南海トラフについて

皆さんこんにちは、今回は南海トラフについてです。
皆さんは南海トラフについて知っていますか？
南海トラフは、日本列島が位置する大陸のプレートの下に、海洋プレートのフィリピン海プレートが南側から年間数ｃｍの割合で沈み込んでいる場所です。沈み込みに伴い、２つのプレートの境界にはひずみが蓄積されています。
南海トラフでは約１００～２００年の間隔で蓄積されたひずみを解放する大地震が発生しています。そして最後に起きた地震では、「昭和南海地震」が 77 年前（1946 年）に起きているので、だんだんと南海トラフにおける次の大地震発生の可能性が高まってきています。



南海トラフの被害

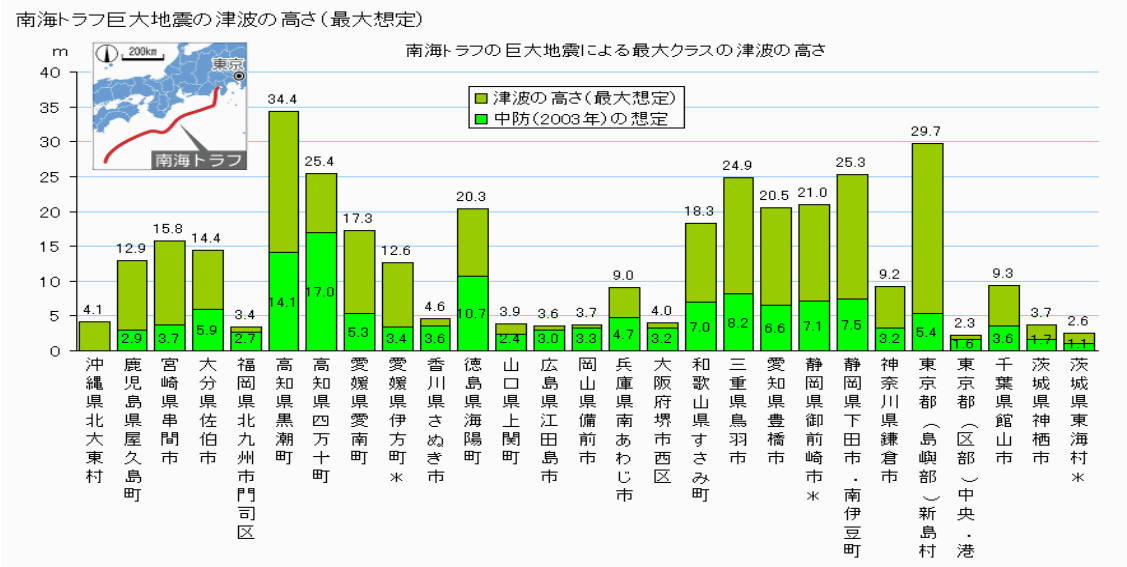
南海トラフの巨大地震が発生すると、各地を激しい揺れが襲うと予想されます。関東から九州で最大 30 の都府県が被害に見舞われ、揺れ、火災、津波により、死者数が 32 万 3000 人、238 万棟あまりの建物が全壊や焼失すると推計されています。
また、地震発生直後から 1 週間の間に、避難所や親戚の家などに住まざるを得なくなる人は最大 950 万人と推計されています。
さらに、インフラの被害により食料の不足はおよそ 9600 万食にものぼるとされています。

南海トラフの津波の被害

国の中央防災会議によると、南海トラフ地震により、関東地方から九州地方までの太平洋沿岸の広い地域で 10 メートルを超える大津波が襲来することが予想されています。

特に、高知県黒潮町と土佐清水市では 34 メートル、静岡県下田市で 25 メートルと非常に大きな津波が生じる恐れがあります。さらに、20 メートル以上の津波も四国から関東にかけての 23 市町村で発生すると見られており、甚大な被害が予想されます。

なお、気象庁では、3 メートル以上の津波で住宅の流失がはじまるとしています。このことから、人への被害のみならず、住宅地の家屋への被害も懸念されています。



自分たちでできること

非常に広範囲にわたる被害が想定される南海トラフ地震では、政府や自治体からのいわゆる**「公助」**がスムーズに受けられない恐れがあります。

普段から一人ひとりが行う**「自助」**への取り組みが重要な対策となります。

・食料、飲料水の備蓄

・トイレットペーパー、常備薬などの日用品の備蓄

・自宅の耐震化、耐火性の確保

・家具、テレビ、蛍光灯などの転倒、落下、移動防止

・災害用簡易トイレの備蓄

・家族同士で災害時の安否確認の伝達手段の確保

・避難経路の確認

など自分でできる範囲のことから始めていきましょう。